

コツコツ

校長 本城 学

「国府台高校の教育について知りたい。」昨秋、大手予備校・M校の校舎長さんの本校への訪問がありました。公立高校と予備校。目指すものや役割に違いがあると思われる中で、このような訪問は大変珍しいことでした。きっかけは、その予備校に通っていた本校の一人の3年生が、同じく本校の1、2年生を集めて予備校内で行った「高校生活の送り方」の講話。後輩を思って熱く語るその内容に感動した校舎長さんは、「この学校は他校と少し違う」と感じて、訪れたいと考えたそうです。私は、本校の自由闊達な校風や鴻陵生の気質について話し、そして何でも一生懸命やる鴻陵生の美学（鴻陵魂）を強調しました。大学入試合格に向けて特化した予備校でありながら、人間力の育成をも目指す考えを持つ校舎長さんは、得心がいった様子で予備校での進路指導に生かしますと言ってくれました。高校生活の3本柱。勉強、部活、行事。能力があって意欲旺盛な若者は、ぜひ本校伝統の「三兎を追う」高校生活を送って欲しいと思います。

一方、ここ数年生徒の進路傾向に大きな変化があります。顕著なものに「現役進路決定率」の急上昇。10年ほど前のそれは50%前後で、「国府台高校は4年制」と揶揄されもしたようです。しかし、徐々に上昇して現在2年連続で90%を越えました。さらに進学先も第一志望校に合格する生徒が急増しています。これは、現在の鴻陵生の高い意欲と努力の賜物であることは間違いありません。また、先生方の授業内容、実力テストとその活用、進学補講、学習合宿、家庭学習促進週間、資格取得の推奨など様々な進路指導体制の充実も後押ししています。

それでも、と思います。3年の夏休みまで文化祭に情熱を注ぎつつ、高いレベルで現役決定率90%を達成するというのは並大抵のことではありません。そんな鴻陵生にはどのような高校生活が必要なのか。予備校の校舎長さんを感動させた先輩の言葉は、概ね次のようなものでした。

「部活を最後までやって、鴻陵祭では演劇の主役をやる。それで第一志望校に合格する。それが鴻陵生。部活も鴻陵祭も3年の夏休み前後に大事な時期が集中する。それが分かっている以上、1年生の時からコツコツと勉強してきた。みんなも、そういう高校生活を送って自分の夢を叶えて欲しい。」

コツコツ。着実。一步一步。どれも地味な言葉ですが、人生の歩み方としてこれほど大切な要素はないと考えています。鴻陵生には、3年間を見据えた計画性と継続性ある学校生活を望みます。キーワードは、コツコツと、です。

「しおり」は一般的には初心者の手引き書です。進路実現に向けスパートに入っている3年生はもちろんのこと、特に1、2年生は充実した高校生活を送るために、この『進路のしおり』を十分に活用してください。頑張れ、鴻陵生。